

市立美術報 だより

発行 鹿児島市立美術館 〒892 鹿児島市城山町4番36号 TEL (0992) 24-3400

館藏品誌上ギャラリー ㊥



桃田柳栄「官女図巻」一部分一 (35.2×1090.0) 絹本墨画着色

〈解説文〉 桃田柳栄 (1647~1698) は狩野探幽門下の四天王のひとりと言われた絵師。有名な「狩野探幽画像」(京都国立博物館蔵、重要文化財)の作者と伝えられている。名は守光、幽香と号す。

本図巻は、昭和60年、鹿児島県内の旧家で発見されたもので、もとは島津家の藏品であったという伝承を持つ。柳栄については不明な点が多く、残された作品も少ない。江戸時代における、柳栄についての最も詳しい記述は『古畫備考』に見ることが出来る。そのなかに「薩摩ニ五百石ニテ被抱、其國ニ畫多ク有之由」とあり、これによると柳栄は薩摩藩の御抱え絵師でもあったことが分る。しかしこれまで、そのことを実証する文献資料や作品がなかっただけに、本作品は『古畫備考』の記述を裏付ける有力な資料と考えられる。

本図は、幅11メートルに及ぶ大作で、中国の官女たちの生活風俗が入念に描かれている。師の探幽を彷彿とさせる作風であるが、『古畫備考』の「桃田は一體手弱き繪也」という評がうなずける繊細な筆致を見ることができよう。また「彩色に至っては、法印(探幽のこと)と見分がたき程也」とする記述の通り、優れた色彩感覚も看取できるのである。

原典は明らかではないが、画趣としては探幽縮図のうち「象興三昧図巻」に近いものがある。人物描写は活気にあふれており、中国に材を取った美人風俗図と見ることができる。このことは、探幽以降の狩野派が風俗画を描くことから遠ざかっているだけに興味深い問題を提起している。

巻末に「柳栄筆」の落款があり、白文方印「瑤澤軒印」を捺す。